

## 公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	このこのリーフ川口			
○保護者評価実施期間	令和7年 12月 8日 ~ 令和7年 12月 26日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	11	(回答者数)	11
○従業者評価実施期間	令和7年 12月 8日 ~ 令和7年 12月 26日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 1月 28日			

## ○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1		<p>安全で落ち着いて過ごせる環境づくりと、手厚い見守り体制を重視した支援を行っている。</p> <p>広いワンフロア空間を活かし、子ども一人ひとりの様子を職員が把握しやすい環境を整えるとともに、職員配置にも配慮し、安心して通所できる体制づくりに努めている。</p> <p>従業者・保護者双方の評価において、子どもが安心して過ごせている点や、職員の関わりに対する評価が高く、日常的な支援の積み重ねが信頼につながっていると考えている。</p>	<p>今後も安全面・環境面への配慮を継続しつつ、子ども一人ひとりの状況や成長に応じた関わりの質を高められるよう、支援の振り返りや情報共有の機会をより充実させていく。</p>
2		<p>日々のミーティングや記録を通じて、子どもの様子や支援上の気づきを共有し、職員間で認識のずれが生じにくい体制づくりを行っている。</p> <p>その結果、支援に対する職員の意識が揃い、保護者からも安心感につながっているとの評価が得られている。</p>	<p>今後は、共有した情報をより支援に活かせるよう、記録の整理方法や振り返りの仕組みを見直し、支援内容の可視化と質の向上を図っていく。</p>
3		<p>保護者との信頼関係を大切にし、丁寧な説明と相談しやすい関係づくりを心がけている。</p> <p>日々の連絡や送迎時の声かけを通じて、子どもの様子を共有し、保護者が安心して相談できる環境づくりに努めている。</p> <p>保護者評価においても、職員の対応や説明に対する満足度が高い結果となっている。</p>	<p>今後も日常的なコミュニケーションを大切にしつつ、保護者のニーズを把握しながら、より分かりやすく安心感のある情報提供を行っていく。</p>

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われるること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1		<p>地域や外部機関との連携について、保護者に十分に伝わっていない面がある。</p> <p>開設から間もないこともあり、まずは事業所内での支援体制の構築を優先してきたため、地域交流や外部との関わりについて、実施状況や考え方が十分に共有されていなかったと考えられる。</p>	<p>今後は、事業所の方針や現在の取組状況について、保護者に分かりやすく伝える機会を設けるとともに、必要に応じて地域や関係機関との連携について段階的に検討していく。</p>
2		<p>支援内容や取組の体系化について、発展途上の部分がある。</p> <p>開設1年目であるため、日々の支援を重視してきた一方で、取組の整理や見える化が十分でなかった点が影響していると考えている。</p>	<p>今後は、日々の実践を振り返りながら支援内容を整理し、事業所としての支援の方向性や取組をより明確にしていく。</p>
3		<p>保護者同士や関係者同士の交流機会について、ニーズの把握が十分でなかった。</p> <p>事業所としては、子どもへの支援を優先してきたが、その意図が十分に伝わらず、評価にばらつきが生じた可能性がある。</p>	<p>今後は、保護者の意向を丁寧に確認しながら、交流の在り方について検討し、必要に応じて情報提供や機会づくりを行っていく。</p>

公表

## 事業所における自己評価結果

事業所名	このこのリーフ川口
------	-----------

公表日 2026年 1月 28日

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6	0	58畳という広々としたワンフロアの特性を最大限に活かしています。お子様たちが圧迫感を感じることなく、自由でのびのびと過ごせる物理的な環境を常に維持しています。	開設1年目として、現在の広々とした安全な環境と基準以上の手厚いスタッフ配置を安定して提供し続けることを最優先とします。今後、利用児童が増加しても「のびのびと過ごせる環境」や「死角のない見守り」の質を損なわないよう、日々の清掃や環境点検をルーチン化し、質の維持・定着に努めます。
	2	利用定員や子どもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	6	0	お子様一人ひとりの特性やその日の活動内容を考慮し、配置基準以上の手厚いスタッフ配置を行っています。これにより、安全な見守り体制と、一人ひとりに寄り添った支援を両立させています。	開設1年目として、現在の広々とした安全な環境と基準以上の手厚いスタッフ配置を安定して提供し続けることを最優先とします。今後、利用児童が増加しても「のびのびと過ごせる環境」や「死角のない見守り」の質を損なわないよう、日々の清掃や環境点検をルーチン化し、質の維持・定着に努めます。
	3	生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	5	1	2階という立地を踏まえ、階段の昇降時にはスタッフが身体を支える介助を徹底しています。室内はフラットで見通しが良く、お子様の安全と心のゆとりを守る「構造上の強み」を活かしています。	開設1年目として、現在の広々とした安全な環境と基準以上の手厚いスタッフ配置を安定して提供し続けることを最優先とします。今後、利用児童が増加しても「のびのびと過ごせる環境」や「死角のない見守り」の質を損なわないよう、日々の清掃や環境点検をルーチン化し、質の維持・定着に努めます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	6	0	室内は見通しの良いフラットな構造です。どこにいても職員の目が届くため、常に清潔を保つつつ、お子様の動きに合わせ柔軟な空間活用を可能にしています。	開設1年目として、現在の広々とした安全な環境と基準以上の手厚いスタッフ配置を安定して提供し続けることを最優先とします。今後、利用児童が増加しても「のびのびと過ごせる環境」や「死角のない見守り」の質を損なわないよう、日々の清掃や環境点検をルーチン化し、質の維持・定着に努めます。
	5	必要に応じて、子どもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6	0	58畳の広さを活かし、パーテーション等を活用することで、一人で静かに過ごしたいお子様のためのリラックススペースを柔軟に確保しています。	開設1年目として、現在の広々とした安全な環境と基準以上の手厚いスタッフ配置を安定して提供し続けることを最優先とします。今後、利用児童が増加しても「のびのびと過ごせる環境」や「死角のない見守り」の質を損なわないよう、日々の清掃や環境点検をルーチン化し、質の維持・定着に努めます。
	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	4	1	業務改善に向職員の意見を積極的に取り入れ、勤務時間の短縮や業務効率化を進めています。	正職員間だけ正職員だけでなく、パート職員も含めた情報共有をより丁寧かつ体系的に行う体制を整えます。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	0	初めての「保護者向け評価表」を実施し、生の声を収集しています。これまでのLINE等での個別対応に加え、客観的な視点で事業所の強みを整理する土台作りを行っています。	結果を真摯に受け止め、全員で共有・分析します。「やって終わり」にせず、具体的な支援内容や環境整備に確実に反映させることを最優先目標とします。

業務改善	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6	0	日々のミーティングや「話しやすいきっかけ作り」を大切にし、現場の気づきをその日のうちに共有・改善につなげるスピード感を維持しています。	誰でも安心して発言できるこの活発な意見交換の文化を維持・強化し、チーム全体で支援の質を高め続けることを運営の目標とします。
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	4	1	開設1年目であり、まずは内部での支援の質の定着に注力しています。	今後は外部の視点を取り入れる機会を検討し、さらなる客観的な業務改善に繋げていくことを視野に入れます。
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	4	1	現在は日々の現場での情報共有とマニュアルの徹底による「実践的な学び」を主軸としています。	今後は外部研修への参加機会を計画的に設け、スタッフの専門性をより体系的に高めていく体制を構築していきます。
	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	5	0	「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域を網羅した詳細な支援プログラムを作成し、ホームページにて外部へ公表しています。これにより、当事業所の支援方針（自立支援や怒らない支援等）を、保護者様や関係機関がいつでも確認できる透明性の高い体制を整えています。	お子様の成長や状況の変化に応じ、モニタリング時期を待たずとも柔軟に計画内容を見直し、常に最適な支援が提供できるよう体制を整えます。
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	4	1	お子様一人ひとりの特性や課題を客観的に分析し、無理のないペースでステップアップできるようアセスメントに基づいた適切な計画作成を徹底するとともに、その内容については保護者様としっかり対話をを行い、合意を得た上で署名をいただき、写しを速やかに交付することで、家庭と事業所の間で支援の方向性を一致させています。  専門的支援にあたっては、常に「健康・生活」「運動・感覚」「認知・行動」「言語・コミュニケーション」「人間関係・社会性」の5領域に基づいたアプローチを実践しています。	現在実践している5領域に基づく支援を、活動記録においてもさらに具体的に言語化し、どの領域がどのように成長したかをスタッフ間でより高い質で共有し続けることで、支援の精度をさらに高めています。
	13 放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、子どもの支援に関わる職員が共通理解の下で、子どもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6	0	計画の作成にあたっては、児童発達支援管理責任者だけでなく、日々の支援に直接関わるスタッフ全員の気づきや意見を反映させています。  案がまとまった段階で、まずは全従業員に内容を提示して確認を行うプロセスを徹底しており、スタッフ全員が共通理解を持った上で、お子様にとって最善の利益となる支援方針をチーム一丸となって検討しています。	
14 放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6	0	完成した個別支援計画は、スタッフ全員が熟読・共有しており、誰が対応しても一貫性のある支援を提供できる体制を整えています。  支援記録についても同様にスタッフ間で常に共有・確認し合える仕組みを構築しており、日々の活動が計画から逸脱することなく、常に目標に沿った適切な支援が行われるよう組織として徹底しています。		

適切な支援の提供	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	0	<p>契約時の聞き取り等の客観的な情報に加え、日々の活動の中での何気ないしぐさや表情、行動の変化を捉える「現場の気づき」を最優先にしています。</p> <p>お子様の変化や困りごとに気づいた際は、即座にスタッフ間で共有し、「どうすればより良い支援になるか」をその場で話し合っています。このスピーディ感のある検討を、専門的な「5領域」の視点に結びつけることで、一人ひとりの発達段階に合わせた適切な関わりを徹底しています。</p> <p>スタッフが先回りしすぎず、お子様自身の意思や変化を正しく捉えることで、自己決定を促すための確かな土台としています。</p>	現場での活発な話し合いで得られた「5領域」の視点による気づきを、活動記録においてもさらに具体的に言語化し、支援の質を組織全体で高め続けていきます。
	16 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	5	0		5領域の視点は持っているが、活動記録においてどの領域に紐付いた成長かをもつと具体的に言語化し、共有する質を高める必要があります。
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	0	<p>個別支援計画の作成にあたっては、パンフレットに掲げている「心のゆとり」や「第三の居場所」という方針を軸に、具体的かつ達成可能な目標を提示しています。</p> <p>5領域（健康・生活、運動・感覚、認知・行動、言語・コミュニケーション、人間関係・社会性）を網羅した詳細な支援プログラムに基づき、一人ひとりの発達段階に合わせた専門的な支援内容を適切に設定しています。</p>	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	0	<p>特定の担当者だけに任せるのではなく、全従業員が毎月の活動内容を主体的に考案する体制をとっています。</p> <p>現場で気づいたお子様の小さな変化や困りごとを即座に話し合い、全員の知恵を出し合うことで、次回の支援に活かせる「チームによるプログラム立案」を徹底しています。これにより、組織として一貫性があり、かつ多角的な視点を持った質の高い支援を実現しています。</p>	
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	5	1	<p>お子様一人ひとりのその日の状態や情緒に合わせ、集中して取り組める個人での創作活動や専門的支援と、無理のない範囲で他者と関わる集団活動を柔軟に組み合わせて提供しています。</p> <p>広い空間を活かし、集団活動を無理に強いるのではなく、お子様が安心して自分のペースで活動を選択できるよう環境を整え、個別と集団のバランスを最適に調整した支援を実践しています。</p>	お子様が自分の意思で活動を選べるよう、写真カードなどの視覚的な選択肢を導入し、自己決定を促すサポートを強化します。

20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	5	0	<p>支援開始前の打ち合わせを毎日欠かさず実施し、その日の活動内容や各スタッフの役割分担を明確にしています。</p> <p>出勤時間が異なるパート職員に対しても、出勤時に必ず「本日の流れ」や留意事項を丁寧に伝える時間を設けており、どのスタッフも同じ認識でお子様と接することができるよう、チーム内での情報共有を徹底しています。</p>	
21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	0	<p>支援終了後には必ず振り返りの打ち合わせを行い、お子様の様子や活動中の気づきをスタッフ全員で共有しています。</p> <p>気付いた点や困ったことがあればその場ですぐに話し合い、どう対応すべきかを全員で検討することで、得られた知見を確実かつ迅速に次の支援へ活かすサイクルを確立しています。</p>	
22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	0	<p>毎日の活動内容や全体の動きを網羅する「施設日報」の記入を徹底しています。</p> <p>個々のお子様の詳細な様子や変化については、毎日のミーティングの場でスタッフ全員で共有・協議しており、日報と対話の両面から支援の質を客観的に検証し、翌日以降の改善に確実に繋げています。</p>	
23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	0	<p>施設日報や日々のミーティングで共有される「生の情報」に基づき、お子様の成長や状況の変化を常に把握しています。</p> <p>定期的なモニタリングはもちろんのこと、日々の対話の中で見直しの必要を感じた際は、時期を待たずとも柔軟に計画を修正し、常に「今の状態」に最適な支援が提供できるよう体制を整えています。</p>	
24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせて支援を行っているか。	4	1	<p>創作活動や体験活動、絵画、身体を動かす活動といった幅広いアプローチから、将来の自立に向けた専門的支援までを、お子様の状況に合わせて組み合わせています。</p> <p>日々の活動の中に調理実習（このこのキッチン）などを取り入れ、これらの多様な要素を折り合わせることで、ガイドラインに定められた基本活動を包括的に提供しています。</p>	
25	子どもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	5	0	<p>子どもたちの「何がやりたい」という自発的な行動や意欲を尊重しながら、活動への参加を促す際はメリハリをつけて関わっています。</p> <p>自分の気持ちを上手く伝えることが苦手なお子さんに対して、絵カードを駆使して意思疎通を図るなど、子ども自身が選択し、自己決定できるようなコミュニケーション支援を徹底しています。</p>	<p>これからも「自分でやりたい」意欲を尊重し、スタッフが先回りしそう、お子様の達成感を自信に変えるための支援を徹底します。</p>

	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、その子どもの状況をよく理解した者が参画しているか。	5	0	相談支援事業所が主催するサービス担当者会議等に、お子様の特性や日々の様子を深く理解しているスタッフが積極的に参画しています。会議の場では、事業所での具体的なエピソードや成長のプロセスを共有し、学校や他機関と足並みを揃えた「チーム支援」を強化することで、お子様にとって一貫性のある支援体制を構築しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	3	2	地域の医療機関や関係機関との連携の重要性を認識し、お子様の主治医や相談支援事業所など、必要に応じて情報共有ができる窓口の把握に努めています。現在は、日々の連絡帳や個別LINEを通じて保護者様から主治医の指示や体調管理上の留意点を丁寧に伺い、ご家庭を介する形での間接的な医療・福祉連携を確実に行う体制を整えています。	医療機関との直接的な協力関係の構築には、地域の実情として高いハードルがあるのが現状ですが、まずは保護者様や相談支援員との連携を軸に、お子様の安全を守るためにネットワークを維持します。今後も、地域の研修会等への参加を通じ、他機関との緩やかな繋がりを広げ、支援の安心感を高めていくことが目標です。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	5	0	お子様の安全な受け入れのため、学校とは下校時刻や行事予定を正確に共有しています。特に、支援中にお子様の様子で気にならることやトラブルがあった場合は、すぐに学校へ連絡を入れて詳細を確認したり、こちらの状況を共有したりと、即座に連携を図る体制を徹底しています。送迎時の対面による丁寧な情報交換と合わせ、学校と共に「今」の情報をアップデートし合うことで、一貫した支援を提供しています。	現在構築できている学校との迅速な連絡体制を今後も継続し、より強固な協力関係を築いていきます。何かあった際に「まず当事業所に相談・連絡すれば安心だ」と学校側からも信頼されるよう、密なコミュニケーションを欠かさず、お子様の安心・安全を守り続けることが目標です。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	3	2	まずは保護者様へのアセスメント（聞き取り）を丁寧に行い、就学前の支援状況やご家庭での様子を深く伺うことに注力しています。現在はオープン直後のため、各機関との直接的な情報共有の実績はこれからとなります。保護者様を介してこれまでの支援方針や配慮事項を正確に把握し、お子様が環境の変化による不安を最小限に抑えて過ごせるよう個別支援計画に反映させています。	
関係機関や保護者との連	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	2	3	2025年4月のオープン直後であり、現時点では学校卒業や他事業所への移行に該当するお子様は在籍しておりません。そのため具体的な情報提供の実績はありませんが、将来的な移行を見据え、日々の支援内容や成長の記録を適切に蓄積・管理しており、いざ移行が必要となった際には、速やかかつ丁寧に情報を引き継げる準備を整えています。	お子様の将来の自立に向け、日々の活動内容や小さな変化をスタッフが漏らさず記録し、成長のプロセスを可視化し続けます。数年後に卒業を迎えるお子様が現れた際、「ここでの支援があったから次へスムーズに進めた」と言っていただけるよう、一貫性のある記録と支援を継続することが目標です
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	2	3	2025年4月にオープンしたばかりの新しい事業所であるため、現在は何よりも利用者様の安全な受け入れと、スタッフとの信頼関係を築くことを最優先としています。まずは日々の支援体制をしっかりと固め、運営を安定させることができがお子様にとっての最大の利益であると考えています。外部機関との連携やアドバイスの受入れについては、現場の基盤が十分に整った段階で、必要に応じて順次検討していく方針です。	運営の安定を待ってから、地域の児童発達支援センター等が実施する研修や専門的な見聞に触れる機会を設けていきたいと考えています。焦って外部連携を広げるのではなく、まずは自所の支援の質をじっくりと高め、その上で適切なタイミングで地域の専門リソースを活用できる体制を目指します。

32 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	3 環境の変化に対して非常に繊細な配慮を必要とするお子様を主にお預かりしています。そのため、不特定多数が集まる児童館等への訪問や一律的な外部交流は、お子様の情緒を著しく損なうリスクがあると判断し、現時点では慎重に対応しています。まずはスタッフとの信頼関係構築と、事業所内での「心理的な安全確保」を最優先とし、屋外活動についても近隣の公園など、見通しが良く落ち着いて過ごせる場所から緩やかに社会との接点を持つよう配慮しています。	2 お子様お一人おひとりの情緒の安定度や発達段階を見極めながら、無理のない範囲で地域社会との接点を広げていくことを将来的な目標としています。運営がさらに安定し、お子様たちが新しい環境に完全に慣れた段階で、適切なタイミングと方法での外部交流を検討していく方針です。
33 (自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	2 現在は利用者様の安全確保と、質の高い直接支援を提供することに全スタッフが心血を注いでいます。支援時間中に安易に現場を離れて外部会議へ出席するよりも、まずは目の前のお子様一人ひとりと向き合い、信頼関係を築くことが事業所としての最大の責務であると考えています。地域のネットワークの重要性は理解しつつも、現在は「現場第一」の体制を貫いています。	3 運営が完全に安定し、現場の支援体制に十分な余力が生まれた段階で、管理者や児発管が地域の自立支援協議会等へ参加し、情報交換や地域課題の共有に貢献していく予定です。焦って形だけの参加をするのではなく、実力の伴った事業所として地域に貢献できるよう、段階的に交流を広げていくことを目標とします。
34 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6 送迎時の対面による対話、連絡帳、そして個別LINEをフルに活用し、多角的な視点でお子様の状況を共有できる体制を整えています。特に個別LINEでは、活動中の様子を写真付きで報告することで、言葉だけでは伝わりにくいお子様の「今日できたこと」や成長の瞬間をリアルタイムで共有しています。これにより、発達の状況や現在の課題について保護者様と深い共通理解を持ち、ご家庭と足並みを揃えた支援を実現しています。	0 保護者様から非常に好評をいただいているこの「見える化」の共有体制を、今後も継続・発展させていきます。お子様の小さな変化も見逃さず伝え続けることで、保護者様にとって「一番の理解者であり、相談者である」という信頼関係をさらに強固なものにしていくことが目標です。
35 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	3 施設日報や毎日のスタッフミーティングで共有された「お子様の小さな変化」や「できたこと」を、送迎時の対話や連絡帳等を通じて保護者様へ丁寧にフィードバックしています。  現場の事実に基づいた共有を行うことで、保護者様から「家での困りごと」を引き出し、共に解決策を考える「寄り添い型」の家族支援を実践しています。  こちらから一方的に手法を押し付けるのではなく、日々の支援で得られた具体的な気づきをベースにご相談に乗ることで、ご家庭ごとの方針を尊重した安心感のある情報提供を行っています。	2 従業員へのアンケート等を通じて、情報共有のあり方を見直した結果、「まだ共有が不十分である」という課題を認識しました。今後は、共有の場をさらに仕組み化し、保護者様からいただいた貴重な声を「現場の改善案」として具体的に落とし込むプロセスを強化します。スタッフ一人ひとりが自信を持って「保護者様の思いを支援に活かしている」と言える体制を築くことが目標です。
36 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	5 契約時や面談の場において、運営規程や具体的な支援プログラム、利用者負担額について、書面を用いて一項目ずつ丁寧に説明することを徹底しています。  支援を開始するための大前提として、保護者様に事業所の運営方針や費用面を正しくご理解いただき、納得していただいた上で利用していただくという「当たり前のプロセス」を確実に実施しています。	0

37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	5	0	支援の出発点として当然のことと考えており、保護者様がお子様の将来に対して抱いているニーズを真摯に伺うことを何よりも大切にしています。  親御様の想いに応えることが我々の最大の役割であるという認識のもと、契約時や定期的な面談、日々の対話を通じて、お子様の最善の利益を共に考え、意向を反映した計画作成を行っています。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	5	0	支援の前提として当然のことと考えており、契約時や面談の場において、計画書に基づいた丁寧な説明を徹底しています。  「ここを利用する」という保護者様の意思決定と、支援内容への納得・同意を直結させることで、信頼関係に基づいたサービス提供を行っています。	
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	5	0	保護者様との信頼関係を大切にしており、定期的な面談を実施しています。  日々の支援の前後、送迎時の引き渡しの際の対話や、連絡帳でのやり取りを通じて、ご家族の子育ての悩みや相談にその都度きめ細かく応じています。  こうした日々の積み重ねにより、保護者様が一人で抱え込みず、気軽に相談できる体制を整えています。	
保護者への説明等	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機械を設ける等の支援をしているか。	0	5	当事業所では、サービスの本来の目的の一つに「家族の休息（レスパイトケア）」があると考えており、あえて「父母の会」などの活動は行っていません。  こうした会を開催することは保護者様にとって多大な手間や負担となり、休息を提供するというサービスの主旨と本末転倒になってしまうと考えているからです。  集団での交流会を設ける代わりに、個別の連絡や日々の送迎時の対話を密にすることで、お一人おひとりの親御さんが心身ともにリラックスして過ごせるよう、黒衣となって支援を支えるパートナーの役割に徹しています。	「会を開くこと」が目的ではなく、「保護者様が孤立せず、休息を得られること」が本質であるため、引き続き集団行事による負担増は避ける方針を継続します。  改善策として、会を設けない分、日々の個別LINEや連絡帳、送迎時の対話の「質」をさらに高め、保護者様が「誰かと話したい、相談したい」と思った時に、いつでも管理者が即座に応答できる体制をより強固なものにしていきます。  保護者様がご自宅で本当の意味での「休息」が取れているかを、日々の対話から汲み取る姿勢を強化します。

41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	0	<p>体制の周知：契約時に「重要事項説明書」を用いて、苦情受付担当者や第三者委員の連絡先を明確に提示し、「どんな些細なことでも、遠慮なくお伝えください」と口頭で丁寧にお伝えすることで、相談しやすい関係作りを始めています。</p> <p>迅速な対応：日々の個別LINEを、単なる活動報告の場に留めず、保護者様が「少し気になること」を気軽に相談できる窓口として活用。些細な違和感もスタッフ間で即座に共有し、管理者が当日中に事実確認と対応を行えるスピード感を大切にしています。</p>	<p>周知の工夫：日頃の連絡がLINEでスムーズに行われているため、あえてかしこまった窓口を利用する機会が少なくなっています。念のため、事業所内の掲示板に「相談窓口」の案内を掲示しておくことで、LINEでは言いづらい内容があった場合でも、保護者様が迷わず連絡先を確認できるようにしておきます。</p> <p>対応のあり方：保護者様から要望があった際は、その日の返信や翌日の送迎時の会話の中で、「昨日の件、このように対応しました」と一言添える程度の自然な形での共有を心がけ、安心感に繋げていきます。</p>
42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	6	0	<p>以前は外部向けの発信も行っていましたが、現在は大切なお子様のプライバシー保護を最優先に考え、不特定多数が閲覧できるSNS等での詳細な発信はあえて控えています。</p> <p>代わりに、当事業所と保護者様のみが参加するセキュリティの保たれたLINEグループ等を活用し、日々の活動概要や行事予定、緊急時の連絡体制について、迅速かつ確実に共有できる体制を整えています。</p>	<p>外部向けのHPやSNSについては、プライバシーに配慮した「当たり障りのない画像」を選定して活用するなど、お子様の安全を守ることと情報発信のバランスを常に検討しながら運用していきます。</p>
43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6	0	<p>秘密保持については、契約時に保護者様へ書面で丁寧に説明し、同意をいたいた範囲内でのみ適切に取り扱うことを徹底しています。</p> <p>保護者様に対してだけでなく、当事業所で働く全従業員に対しても秘密保持に関する誓約書の提出や教育を行い、組織全体で個人情報の保護に細心の注意を払っています。</p>	
44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6	0	<p>上手く伝えることが苦手なお子さんには絵カードを駆使し、保護者様とはLINEや対面でこまめに連絡を取り合うなど、丁寧な配慮をしています。</p>	
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	0	5	<p>お子様の心の安定と安全を最優先事項としています。</p> <p>不特定多数の地域住民を招待するような急激な環境変化は、お子様がパニックを起こしたり不穏になったりする直接的な原因となるため、現在はあえて実施を控えています。</p> <p>形式的な「地域開放」よりも、現在お預かりしているお子様一人ひとりが、静かで安心できる環境で過ごせることを何よりも重視しています。</p>	<p>お子様の特性や心の平和を守りつつ、社会との接点をどのように持っていくかが今後の検討課題です。</p> <p>全員を一度に招待するような形ではなく、地域資源（公園や近隣施設）の活用を通じた日常的かつ緩やかな形での地域交流を継続し、お子様に過度なストレスを与えない「開かれた事業運営」のあり方を模索していきます。</p>
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	3	2	<p>事故防止、緊急時対応、防犯、感染症対応の各種マニュアルを完備し、全従業員への周知を徹底しています。これに基づき、階段介助が必要なお子様や車いすをご利用のお子様など、個別の特性に合わせた避難訓練を定期的に実施し、スタッフが即座に動ける体制を構築しています。</p>	<p>まだ共有が行き届いていない従業員もいるので、そこは徹底的に共有出来るようにしていきます。日々のミーティングや現場での指導を通じ、全スタッフが同じレベルでマニュアルを理解し、お子様の安全を隙なく守れる体制を確実に作り上げます。</p>

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	4	1	業務継続計画（BCP）を策定し、全従業員への周知・共有を徹底しています。定期的な避難訓練に加え、階段介助など、お子様一人ひとりの身体状況に合わせた具体的な救助・救出方法をスタッフ全員で確認し、非常時でも命を守り抜く体制を整えています。	策定した計画を形骸化させないよう、ミーティングでの振り返りを継続します。新しく入ったスタッフも含め、全従業員が「自分たちの手でお子様を救い出し、支援を繋ぐ」という責任感を常に持ち続けられるよう、訓練と周知を徹底していきます。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	5	1	入所前の面談にて、アセスメントシートを活用し、服薬の種類や時間、予防接種の履歴、てんかん発作の有無やその際の対応方法などを詳細に確認しています。また、日々の到着時の検温や観察を通じ、その日の心身の異変をいち早く察知できる体制を整えています。	日々の送迎時の対話や連絡帳でのやり取りを通じ、処方薬の変更や体調の変化をリアルタイムでキャッチすることを徹底します。保護者様との密な連携を継続し、常に「最新のお子様の状況」に基づいた安全な支援を、全スタッフで共有し続けていきます。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	4	1	入所前の面談時にアレルギーの有無を詳細に確認し、該当がある場合は必ず医師の指示書を提出していただいています。その指示書に基づき、おやつ提供時には全スタッフで内容を再確認し、誤食を未然に防ぐためのダブルチェック体制をルール化して徹底しています。	まだ共有が行き届いていない従業員もいるので、そこは徹底的に共有出来るようにしていきます。医師の指示という「命に関わる情報」を、全スタッフが常に正しく把握し、一寸のミスもない安全な食の環境を継続していくことが私たちの目標です。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	5	0	事業所で策定した「安全計画」の内容や、日頃実施している避難訓練等の取り組みについて、保護者様へ周知を行い、共通認識を持てるよう努めています。また、日々の送迎時の対話や個別LINE等を通じ、お子様の安全確保に関する情報を適宜共有することで、ご家庭と密に連携した見守り体制を構築しています。	現在構築できている保護者様との強固な信頼関係を維持し、安全に関する取り組みを定期的にお伝えし続けます。お子様の安全を最優先とする当事業所の方針を、今後も透明性を持って発信し、保護者様に常に安心を提供し続けることを目標とします。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	0	利用開始前に、避難経路や緊急連絡先を明記したお手紙を配布し、保護者様への周知を徹底しています。また、教室内にも避難経路図や緊急時の対応手順（「こうなったら、こう動く」という明確な指針）を掲示し、不測の事態でも従業員が落ち着いてお子様の安全を確保できる環境を整えています。さらに、送迎時の対話や連絡帳を通じて日頃から安全情報を共有し、ご家庭と足並みを揃えた見守り体制を構築しています。	現在構築できている保護者様との緊密な連携と、現場の視覚的な安全対策を今後も大切に継続していきます。新しいスタッフが入った際も、室内の掲示や配布資料を活用して即座に安全意識を共有し、お子様と保護者様に常に揺るぎない安心感を提供し続けることを目標とします。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	5	0	どんなに些細な気づきやヒヤリとした事例も、毎日のミーティングで全従業員に即座に共有し、その場で再発防止策を検討する体制を徹底しています。お子様のパニックの前兆や行動の変化を全員が共通認識として持つことで、事故を未然に防ぐ「予防的支援」をルール化し、現場の安全性と支援の質を高めています。	現在、従業員間で行き届いているこの「即時共有・即時検討」の習慣を、今後も高い水準で継続していきます。些細な違和感もためらわずに発言できる風通しの良い環境を維持し、常に「今のやり方がベストか」を問い合わせながら、お子様にとって最も安全な環境を作り続けることが目標です。

53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	4	1	事業所内での定期的な虐待防止研修に加え、自治体（市区町村等）が開催する虐待防止関連の研修や集まりにも積極的に参加しています。外部での学びや最新の情報・事例を必ず持ち帰り、ミーティングを通じて全従業員へ共有・周知することで、常に客観的で高い倫理観に基づいた支援体制を構築しています。	現在徹底されているこの研修体制を継続し、全スタッフが常に「自分たちの支援が虐待に当たらないか」を自問自答し合える風通しの良い環境を維持します。自治体との連携もさらに深め、地域全体で虐待を防ぐという意識を高く持ち続けることが目標です。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	4	1	身体拘束は原則として行わない方針を徹底しており、その基本的な考え方や厳格なルールについて、定期的なミーティングで全スタッフに周知・徹底させています。現在、身体拘束を必要とするお子様は在籍していませんが、今後もしやむを得ず検討が必要な状況が生じた場合には、決して独断で行わず、事前に保護者様と十分に相談・協議を行い、同意と理解を得た上で個別支援計画に明記し、組織的に対応する体制を整えています。	スタッフ間で行き届いている「原則禁止」の意識を今後も維持し、拘束を必要としない「環境調整」や「適切な声かけ」のスキルをさらに磨き続けます。現在確立している「保護者様との徹底した相談・合意」のプロセスを、今後も一寸の緩みもなく継続していくことを目標とします。